

予算決算審査委員会 厚生文教分科会報告書

平成28年6月24日

備前市議会議長 鵜川晃匠 殿

厚生文教分科会
主査 掛谷 繁

平成28年6月24日に分科会を開催し、次の議案を審査したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	備 考
議案第80号 平成28年度備前市一般会計補正予算(第1号)中、 厚生文教分科会所管部分のうち、教育部関係	—

《 分科会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第80号の審査	2
閉会	6

予算決算審査委員会 厚生文教分科会記録

招集日時	平成28年6月24日（金）	厚生文教委員会休憩中		
開議・閉議	午前9時59分	開会　～	午前10時21分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中（第4回定例会）の開催		
出席委員	主査	掛谷　繁	副主査	山本　成
	委員	橋本逸夫		川崎輝通
		立川　茂		西上徳一
		星野和也		
欠席委員	田口健作			
遅参委員	なし			
早退委員	なし			
列席者等	議長	鶴川晃匠		
	参考人	なし		
説明員	教育部長	谷本隆二	小中一貫教育推進課長	川口貴大
	教育総務課長	芳田　猛	学校教育課長	磯本宏幸
	生涯学習課長	高橋清隆		
傍聴者	議員	山本恒道	尾川直行	石原和人
		森本洋子		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前9時59分 開会

○掛谷主査 ただいまの出席は7名です。定足数に達していますので、これより予算決算審査委員会厚生文教分科会を開会します。

歳入から入りたいと思います。

8、9ページ、県支出金、県委託金、教育費県委託金の3節で何かございましたら、どうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

繰入金、基金繰入金、学校教育振興基金繰入金で何かございましたらどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

諸収入、雑入の38節教育費雑入で何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

歳出に入ります。

18、19ページをお開きください。

教育費、教育総務費でございましたらどうぞ。

○星野委員 事務局費で学校応援事業について聞こうと思ったら、資料が出ているので、この資料について説明をいただきたい。

○芳田教育総務課長 「すべては子どもたちのために」学校応援事業ということで、お手元に資料を配付しています。

今回、備前中学校と伊里中学校の2校から事業の予算を確保ということで提案が出ています。

備前中学校については、資料の事業費、中段にあります。備品購入ということで、主なものとしては、ページセッター及び大判のA0プリンター1台、これに伴う消耗品等々で購入費を計上させていただいています。この事業に関して教育委員会と協議した結果、有効と、妥当であるということで、予算計上させていただいています。

右ページになりますが、こちらは伊里中学校ということで、学力向上及びその他学校が取り組みたい事業として提案されています。事業費としては、報酬費、講師謝礼2名分として3万円を計上、備品購入として、主なものとして体育備品、これは各部活動に伴う備品を購入する予定になっています。設備費としては、特別教室、理科室等で使いたいということで、プロジェクタースクリーンの購入、その他負担金補助及び交付金は、教員等の研修等参加負担金を計上させていただいております。これらの事業についても、教育委員会で査定した結果、妥当であるということで予算計上をさせていただきました。

○星野委員 ということは、学校側が申請してきたものは、全て許可されたと思っておけばよろしいか。

○芳田教育総務課長 はい、今回は学校から出たもの全て計上しています。

○川崎委員 67万円、100万円単位で、こういう応援事業をやっているが、あと日生中と三石、吉永もあるのか。そこらの中学校の動きというのはどうなのか。自主的に予算要求してくる

状況というのは、今のところないのか。

○芳田教育総務課長 既に、次の補正予算で計上したいという形で相談は受けています。

○川崎委員 それは、残り3校か。全てと考えてよろしいのでしょうか。

○芳田教育総務課長 今お話があるのは三石中学校、あと小学校もかなり残っておりますので、これから順次9月に向けて協議してまいりたいと考えています。

○川崎委員 気になるのは、残っているのは、日生と吉永中学校、そこらは、そういう動きすらないのか。

○芳田教育総務課長 動き自体は、学校の中ではどういう使い方ということで協議をしておりますが、実際にほかの中学校の動きを見ながら、自分ところでどういったものを導入したりとか、どういう授業に使ったらいいかということで、まだ検討中と聞いております。

○掛谷主査 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

20ページ、教育費の中学校費で何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

教育費の社会教育費で。

○橋本委員 備前ふるさと創生カレッジ運営委託料1,000万円、これは地方創生加速化交付金事業で、丸々この補助金が県の1,000万円を活用してということで、細部説明書にも起業や移住につながる講座を実施するための備前ふるさと創生カレッジ運営委託料。どうも、社会教育という部門で起業、つまり経済活動といったものをやるための講座を実施するのに、こういう社会教育総務費に分類されるというのが、いまいちぴんとこない。具体的にどういった内容の講座を開こうとされているのか。それで、1,000万円といえば相当な金額ですね。創生カレッジ、カレッジだから、単科大学の運営等、何かどういうことを中心にやろうとされているのか、もう一つ相わかりしないので、詳しく説明してください。

○高橋生涯学習課長 生涯学習の所管という意味合いでは、広く青年とか成人教育という意味で、教育という部分では生涯学習と思っておりますが、内容については、まず、まち・ひと・しごとの総合戦略の中における目標値は、起業者数というのを目標値にさせていただいておりますが、起業支援ということで、まず地元の資源を知っていただいて、地元の起業家や各種団体の方、それからそれぞれ多様な分野に関する資源、人と触れ合っていただいて、ワークショップなどもしていただくという内容になろうかと思っております。それで、その方御本人の将来の備前におけるキャリアビジョンを持っていただく。その上で、地元でのビジネスを成功につないでいけるプログラムを用意させていただくという予定です。

○橋本委員 聞けば聞くほどわからない。こんなもの生涯学習課の事業ではないでしょうか。何でこんなところに分類されたのか。どちらかという、私が冒頭言ったように、起業、新たになりわいを起こす、そういった希望を持っている方々に対してカレッジ、そういう団体をこしらえ

て、年何回か講演を聞いて、あるいはアドバイスして、こうしたらいいですよ、ああしたらいいですよというようなことにつながる、ふるさと創生カレッジの運営と。それが、何で生涯学習課なのかと。課長自身、疑問に思いませんか。上のほうから、これやれと言われて、何じゃろうかと。今の説明を聞いても、私ら、はっきり言って、わかりません。

○谷本教育部長 委員の言われることは、わかります。まち・ひと・しごとの協議をしていく中で、皆さん御存じだと思いますが、教育のまち備前という中の1番目に備前ふるさと創生会議、関係課、生涯学習課ということで、確かに起業という面言えば、産業振興的な部分というのは当然大きいわけですが、カレッジという位置づけで成人教育ということで生涯学習課という位置づけでなっているので、我々としては、これにのっかってやっているというのが正直なところで

す。

○立川委員 本当に、これ具体的なカリキュラムとかスケジュールをお聞かせ願えたら理解しやすいと思うが、その辺はどうですか。できているのか、できていないのか。

○高橋生涯学習課長 実際、こちらのほうについては、委託料で上げさせていただいていると申しますのも、プロポーザルの入札を実施させていただこうと、提案ということで実施させていただこうと思っています。その概算の金額を出させていただくのに、カレッジの実施運営の経費とか、企画調整の経費とか、それから開校に係る経費とかを概算でこちらで出させていただいています。ですので、詳細がどのような形になるかというのは、今後入札等が終わった後でお示しができると思っています。

○立川委員 ほんとわかりづらいですね。規模も何も想定がないのか。それから、人数構成、それと時期的なもの、全部委託で丸投げという解釈か。

○高橋生涯学習課長 もちろんカレッジで登壇していただく講師の費用、会場使用料とか、委員会とか、その辺も開いていく費用というのも当然中には見込んでおりますが、実際どの講師に登壇いただいてというようなことまでは、今のところ決まっていないというのが現状です。

○立川委員 そうではなく、対象のほうです。市民のほうです。そのスケールだとか、どういう人を対象に、年代層は、人数的にはどうなのか、そういったことを尋ねたわけです。

○高橋生涯学習課長 もちろん総合戦略とか、いろんなところで若者を対象にという書きぶりもしているが、実際起業を目指される方は、若者に限らず、門戸は広げていきたいと思っています。

○立川委員 それをどう絞っているのかお尋ねしたつもりですが、全くわからないというところが正解ですか。その乱暴な事業をこのたび提案したという理解でよろしいか。

○高橋生涯学習課長 乱暴なといいますか、国の加速化交付金の期限があったこともあります。ただ、カレッジ実施運営経費600万円、企画調整費用250万円、開校プロモーション費用が150万円という内訳では、こちらのほうでは積算をしています。

人数については、予算との関係もありますので、定員なしということにはならないとは思いま

すが、定員はきっちり決めて運営はさせていただきたいと。

年齢層については、特にこの層に限定するということは考えてはございません。

○橋本委員 さっき、入札をしてプロポーザルがどうだこうだ。じゃあ、そういう先進事例、あるいはどこかの自治体でこういうことをやったというような、そういう例えばパンフレットの的なものですね、こういうものをやるというようなものは提示できないか。一切闇の中で、さあこれということでしょうか、こんなものというイメージが湧かない。

○高橋生涯学習課長 提示できるとすれば、真庭市で真庭なりわい塾を今やっていますが、そこも1年目に基礎コースということで、年間で9回から10回の講座を開いて、それで御自身のキャリアビジョンを持っていただくと。2年目に、実際の立ち上げのノウハウを学んでいって、起業につながると。私どもでは、その先に、起業されたという方をまた講師にお迎えして、循環をつくっていくという意味での学習効果というのも考えていますので、真庭のなりわい塾のパンフレットであれば提示できると思います。

○橋本委員 それで結構なので、できれば予算決算審査委員会までにその資料を議員に渡して、こんなイメージというものを見せてもらわないと、本当に私らはイメージが湧かないわけです。よろしくお願いします。

○掛谷主査 資料、大丈夫ですか、真庭の、後でいいが、出せますか。

○高橋生涯学習課長 はい。了解しました。すぐまたいただくようにします。

○川崎委員 私は、国がせつかく1,000億円か2,000億円、地方活性化何かで関連で出てきたお金の流れと思うが、1つは、うちのスローガンにある、海とみどりと炎でしたか、何か3色あったと思うが、そういう基本的なものに基づいて、やはりこういうものはやっていただきたいということが、1点。

もう一つは、実際に今地域おこし協力隊、21名か、総務産業委員会か何かで聞いた覚えがあるが、やはり現実に来て地域で活動している、地域に根差したものをやらないと私は思います。真庭がいいからといって、ここでまねしてできるわけがない。あつちは、やはり森林とか、地域性を生かしたやり方をしているわけで。備前は備前のやり方ということになれば、海と山と炎のバランスをどうとるか、どういう起業を考えるかということであろうと思うので、やはり現実に生活し、活動している方の意見を聞きながら、できればそういう人の中から講師を選んでいただいて、もっと実用的、実践的なものを生きた存在として事業がやれば、参加者もふえると思う。一般的な理念というのは、どこのを聞いても、いいことは言うわけで、現実との接点、結びつきがつかないというのが現実です。そういう意味では、ぜひ地域おこし協力隊の方々が講師になって、講師料ももらい、元気を出して頑張ろうかというような相乗効果を生むような事業内容に設定していただきたいと要望したいと思うが、いかがでしょう。

○高橋生涯学習課長 私も、委員のおっしゃるとおりだと思います。地元の方でないで地元のことは見えにくいというのもあるし、逆に地域おこし協力隊の方が来て、今まで我々住んでいる者

が気づかないような視点も持っていると思いますので、ぜひ事業への参加をお願いしたいというふうに思っています。

○川崎委員 ぜひ地についたものをやってもらいたい。大体こういうものをやっても空振りで、跡形もなく消えていくという形ではなく、今動いている人が元気になる、それに仲間がふえるような内容にさせていただきたいと要望しておきます。

○掛谷主査 ほかに。

○立川委員 これは確認ですが、部長、先ほどおっしゃったように、計画で立案しているからやるということのお話もありました。課長からは、これ委託料だから、丸投げするという気はしていたが、その内容もわからない。それと、最初に確認だけですが、この事業は単年度で終わるのか。それとも継続性を何か考えているのか。その点だけ、返答いただけたらと思います。

○高橋生涯学習課長 総合戦略にも載せており、目標値は5カ年で考えていますので、継続して、単年ですぐに知識を得て起業できるというものでもないもので、やはり好循環につなげていくためには、複数年事業ということで設定をさせていただいています。

○立川委員 国の予算がつかなくても、5年間はやろうと、そういうスタンスだという理解でいいですか。予算がつく、つかない、関係なしという理解でよろしいでしょうか。

○高橋生涯学習課長 当然、総合戦略に載せるということは、やっていこうという意思表示であろうと私は理解しておりますので、ぜひやらせていただきたいというふうに考えております。

○掛谷主査 ほかに、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

最後に、議案全体で質疑漏れはございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を終了してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

以上で議案第80号についての教育部関係の審査を終了します。

それでは、予算決算審査委員会厚生文教分科会を閉会します。

午前10時21分 閉会